

履歴および教育・研究活動の記録

森 田 孟

I 履歴

1 学歴

- 1958年 4月 東京教育大学文学部英語学英米文学科入学
1962年 3月 東京教育大学文学部英語学英米文学科卒業
1964年 4月 東京教育大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程入学
1966年 3月 東京教育大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了
(文学修士)

2 職歴

- 1962年 4月 東京成徳高等学校教諭 (1963年3月まで)
1963年 4月 巣鴨高等学校教諭 (1964年3月まで)
1966年 4月 大東文化大学文学部講師 (1967年9月まで)
1967年 10月 名古屋大学法学部講師
1968年 4月 名古屋大学教養部講師
1972年 8月 名古屋大学教養部助教授
1973年 7月 アメリカ合衆国イェール (Yale) 大学客員研究員 (文
～ 1974年8月 部省在外研究員)
1976年 10月 筑波大学文芸・言語学系及び博士課程大学院文芸・言語
研究科助教授 (研究・演習担当)

- 1989年 4月 筑波大学文芸・言語学系教授及び博士課程大学院文芸・言語研究科研究指導教授（研究・演習・学位論文指導担当）
- 1998年 4月 筑波大学博士課程大学院文芸・言語研究科長（2000年3月まで）
- 2003年 3月 筑波大学を定年退職
- 2003年 4月 筑波大学名誉教授
- 2003年 4月 成城大学文芸学部教授
- 2010年 3月 成城大学を定年退職

3 非常勤講師

- 1966年 4月 中央大学理工学部（1967年9月まで）
- 1967年 10月 名古屋学院大学（1973年3月まで）
- 1968年 4月 南山大学文学部（1976年9月まで）
- 1977年 4月 東京理科大学理工学部（1982年3月まで）
- 1977年 4月 慶應義塾大学文学部（1999年3月まで22年間）
- 1983年 4月 津田塾大学文学部（1984年3月まで）
- 1985年 4月 大妻女子大学文学部（1994年3月まで）
- 1986年 9月 N H K学園短歌講師（1988年3月まで）

4 集中講義

- 宇都宮大学教育学部（1981年7月・12月）
- 宇都宮大学大学院教育学研究科（1984年～1998年まで毎年2回ほど15年間）
- 沖縄国際大学文学部（1985年6～7月 / 1987年11月）
- 茨城大学人文学部（1988年11月 / 1991年11月 / 1993年2月 / 1994年7月 / 1997年7月 / 2002年6月）
- 岩手大学教育学部（1982年7月 / 1992年11月）
- 岩手大学人文学部（1990年12月）

愛知県立大学文学部（1989年1月）

高知大学人文学部（1990年10月）

岐阜大学教育学部（1991年7月）

近畿大学大学院文芸学研究科（1994年～2001年まで毎年1、2回ずつ8年間）

埼玉大学大学院教育研究科（1994年8～9月 / 1995年7月）

西南学院大学文学部（1998年11月）

神戸大学文学部（1998年11月）

II 学会・社会活動

東京教育大学大学院英文学会 [1964年4月～1977年4月]

日本英文学会 [1967年4月～現在。大会準備委員（1977年6月～1981年5月）、第53回大会[創価大学]準備委員長（1980年6月～1981年5月）、編集委員（1986年4月～1990年4月）、評議員（1993年4月～2000年3月）、理事（1996年4月～2000年3月）]

日本アメリカ文学会 [1967年4月～現在。東京支部評議員（1983年4月～2003年3月）、東京支部幹事（1983年4月～1985年5月）、東京支部運営委員（1983年4月～1987年10月）、東京支部会報編集委員（1985年4月～1987年5月）、全国大会運営委員（1985年4月～1988年10月）、全国機関誌編集委員（1986年4月～1988年5月）]

大塚英文学会 [1978年4月～2003年3月]

日本ホーソン協会 [1980年4月～現在]

筑波大学アメリカ文学会 [1985年4月～代表（1991年～2003年）～現在]

日本現代英米詩学会（途中、日本英米詩歌学会に名称変更）[理事（1990年4月～現在）、会長（2001年4月～2007年3月）]

*

桜村 [現つくば市] 立並木小学校 P T A 初代会長 (1978 年 4 月～1979 年 3 月)

茗溪学園父母会第二代会長 (1984 年 5 月～1989 年 4 月)

茗溪学園父母会・後援会顧問 (1989 年 5 月～現在)

未来短歌会同人 (1960 年～現在)

日本文藝家協会会員 (2003 年 9 月 19 日～現在)

Ⅲ－Ⅰ 教育・研究活動 (1961 年～2003 年 3 月)

i 著作 [「森田孟略歴・著作一覧」(2000 年 3 月)と「同・補遺」(2003 年 3 月)の総計 43 ページに収載ずみの A. (共)(編)著書 6 点、B. 翻訳(詩歌・論文の邦訳、英訳を含む) 27 点、C. 研究論文 274 点、D. 書評、研究ノート・余滴、随想、学習参考記事、紹介文、等 277 点、E. 注釈書 5 点、F. 歌集、歌書、歌論、歌集解説、等 24 点全て単著総計 613 点からそれぞれ主なものを若干ずつ抜萃する]

A. 著書

『長塚節の世界』(学内プロジェクト B 研究成果報告) 筑波大学、1994 年 [編著]

『アメリカ文学のヒロイン』リーベル出版、1984 年 [共編著]

『アメリカ小説－理論と実践』リーベル出版、1987 年 [共編著]

『アメリカ文学とテクノロジー』筑波大学アメリカ文学会、2002 年 [共編著]

『イン・コンテクスト』Epistemological Framework と英米文学研究会、2003 年 [共編著]

B. 翻訳

D.C. ミカ『アイロニー』研究社、1973 年

スタンレー・ハイマン『批評と評価』大修館書店、1974 年

J. ヒリス・ミラー『批評の地勢図』法政大学出版局、1990年
グレアム・アレン『文学・文化研究の新展開－間テクスト性』研究社、
2002年
ウィリアム・フォークナーの全詩業[『ヘレン・求愛』『ミシシッピー詩篇』『大
理石の牧神』『緑の大枝』『春の幻想』『操り人形一家』及び、初期詩篇
17篇]の全訳『文藝言語研究・文藝篇』[以下『文藝篇』と略記]13、
14、15、16(筑波大学文芸・言語学系)、1988年－1989年
マリアン・ムーア全詩作191篇全訳[*ELM*, 42(楡短歌会)1990年、以降
同誌に20回、『文藝篇』22。1992年、以降同誌に14回等で論述しながら]
フレデリック・ゴダード・タッカーマンの全詩業全訳[『文藝篇』43、及
び後出『成城文藝』第190～193号で論述しながら]
ケネス・コーク「詩という芸術」『新文学風景』第5号、1981年；第6号、
1984年、同じく「美について」『文学について』最終号、1985年
近藤芳美短歌144首選出英訳[*The Tanka Journal*, No. 8(日本歌人クラブ)
1996年、以降同誌No. 20, 2002年まで12回、及び、*Poetry Tokyo*, No. 8
(*Poetry Tokyo Society*)1996年、*Japan Poetry Review*. Nos. 4, 5(日本現
代英米詩学会)1998年、1999年の合計15回に亙って]

C. 研究論文

フォークナー論46点から

「[未完]の三角形－フォークナーへの一つのアプローチ」『アメリカ文学』
(東京教育大学アメリカ文学研究会)No. 4, 1965年
「フォークナーにおける“眼”」*IVY*(名古屋大学英文学会)No. 8, 1969年
「フォークナーの文体」『英語文学世界』(英潮社)7月号、1976年
「[悔しさ]克服の軌跡－フォークナーにおける〈愛〉」『アメリカ小説の展
開』(高村勝治教授還暦記念論集)松柏社、1976年
「深化の転回点:『町』－W. FaulknerのSnopes三部作から」『英語青年』(研

究社) Vol. 126. No. 7 [巻頭論文] 1980年

「William Faulknerの提示の問題－組み立ては読者に」『欧米における現代小説の諸相』（文部省研究成果報告）1981年

「フォークナーの読者－John T. Matthewsの場合」富原芳彰編『文学の受容－現代批評の戦略』研究社、1985年

「読み方の移り変り－フォークナーの場合」『英語教育』（大修館書店）10月号、1986年

「業を見据える原点－ウィリアム・フォークナーの〈インディアン〉」山形和美編『差異と同一化：ポストコロニアル文学論』研究社、1997年

「イスユリエルの槍－フォークナーの『蚊』」『アメリカ文学評論』（筑波大学アメリカ文学会）No. 16, 1998年

ホーソン論7点から

「Hawthorneにおける「石」の意味」*Otsuka Review*（東京教育大学大学院英文学会）No. 7, 1972年

「手は招いている－ホーソンの短篇「痣」小考」『アメリカ文学』No. 13, 1974年

「ホーソンの蛇」『文学について』No.4, 1976年

「ホーソンの平衡感覚－『緋文字』小考」『アメリカ文学評論』No. 3, 1981年

メルヴィル論6点から

「『白鯨』－その組織と構造」『名古屋大学教養部紀要・第19輯』1975年

「メルヴィルの世界と〈愛〉－得るところ多き損失」『英語青年』Vol. 137. No. 9, 1991年

「琥珀の中の化石蠅－メルヴィルの『ピエール』の〈自伝度〉」『アメリカ文学評論』No. 13, 1993年

「〈アメリカ〉とメルヴィルの『詐欺師』」『アメリカ文学評論』No. 14,

1994年

マーク・トゥエイン論 8点から

「ハドリバークを「浄化」した男－マーク・トゥエイン」『文学について』
No. 2, 1974年

「絶望の彼方へ－「思考実験」とマーク・トゥエインの歩み」『アメリカ文
学』 No. 15, 1977年

「『ハック・フィン』の現代性」『英語青年』 Vol. 131. No. 7, 1985年

「マーク・トゥエインの「自伝」－ナルシシズムとの闘い」『文藝篇』 18,
1990年

「マーク・トゥエイン：少年のヒーローたち－〈トリックスター〉として」
『アメリカ文学のヒーロー』 成美堂、1991年

マリアン・ムーア論 38点から

「^{はいせん}擺線の包括－マリアン・ムーアの「結婚」(1)(2)」『文藝篇』 22, 23, 1992年,
1993年

「輻輳を内蔵した〈擬装〉－マリアン・ムーアの世界」『文藝篇』 24, 1993
年

「乗り物としてのマリアン・ムーア－「スウェーデンからの四輪馬車」考」
『文藝篇』 33, 1998年

「錬金術を誘発する軟体動物「詩」－マリアン・ムーアの「蛸」」『文藝篇』
35, 1999年

「地を這う天馬ベガサス：マリアン・ムーア－その『完全詩集』を完訳する」
『文藝篇』 37, 2000年

「真物への道程－引用と改作－〈モダニズム〉の先へ マリアン・ムーア
作品の詩観」『イン・コンテキスト』（前掲）2003年

スタイロン論など長文のものから

「William Styron's *The Confessions of Nat Turner* または事実に対する「事実」

- の勝利」『アメリカ文学研究』（日本アメリカ文学会）No. 7, 1971 年
- 「Flannery O'Connor の世界－ある譬喩群の考察を中心に」『名古屋大学
教養部紀要・第 17 輯』（『英語学論説資料』第 7 号第 4 分冊に再録）
1973 年
- 「芸術家生誕の「神話」華麗なる対幅幻惑曲－J. アップダイク『ケンタ
ウロス』考」『アメリカ小説研究』泰文堂、1976 年
- 「呼び続けるものの正体－アーサー・ゴードン・ビムの報告」『アメリカ文
学評論』No. 5, 1984 年
- 「荒野に火を振り撒く激情－ソール・ベロー『ハーツォグ』小考」『アメリ
カ文学評論』No. 6, 1984 年
- 「アン・セクストンの「合衆国動物寓話」－托された自己暴露」*American
Literature Tsukuba*（筑波大学大学院アメリカ文学研究会）No. 1, 1985
年
- 「或る窓から見た光－『偉大なるギャッツビー』小考」『アメリカ文学評論』
No. 7, 1985 年
- 「自己認識の跡－カーソン・マッカーズの詩」『アメリカ文学評論』No. 8,
1986 年
- 「エリザベス・ビショッブ断章」『文藝篇』11, 1987 年
- 「Adrienne Rich の愛の詩 21 篇」『文藝篇』12, 1987 年
- 「^{かが}騰り穴のある細密画－〈現代小説〉としての『アメリカ人』」『アメリカ
文学評論』No. 9, 1988 年
- 「ヤムスの顔を持つ華麗な魔術師－J. ヒリス・ミラー」岡本・川口・外山編
『現代の批評理論』第 2 巻、研究社、1988 年
- 「アメリカ現代詩の〈セスティーナ〉－その現状と意義」（Ⅰ）（Ⅱ）『文藝
篇』29, 30 [全 120 頁で、この窮屈な定型作品 35 篇を収集して原詩付
き対訳（森田訳）で論じた] 1996 年

- 「薄明に火と燃える出来事－エリザベス・ビショップ小考」*American Literature Tsukuba*, No. 9, 1999 年
- 「希望回復への道程－Frederick Goddard Tuckerman の世界」『文藝篇』43, pp. 1－134, 2003 年
- 「現代英米詩覚え書 (1)～(37)」*ELM*, Nos. 1～41 [A. R. Ammons, J. Ashbery, Galway Kinnell, Maxine Kumin, J. Merrill など新しい詩人とその作品を取り上げた] 1983 年－1990 年
- 「現代アメリカ詩探訪 (1)～(4)」『青焰』第 33－35, 39 号 [アシュベリー、ウィルバー、スウェンソン、象徴行動詩、セステイーナ、小説家詩人ジョン・アプダイクなどを取り上げた] 1994 年 12 月－1995 年 10 月
- 日本の短詩型文学論から
- 「『楽章』の内と外－近藤芳美論」『未来』(未来短歌会) Vol. 30. Extra 版 346 号、1980 年
- 「常陸と『萬葉集』」『現代歌人茨城風土記』六法出版社、1992 年
- 「『萬葉集』の〈こころ〉と〈つま〉たち」『文藝篇』31 [私自身の迂闊のせいで承諾の返事を怠って『日本語学論説資料』に再録され損なった。痛恨の極み] 1997 年
- 「『萬葉集』の言こと－詩歌の本質」『文藝篇』32 (『日本語学論説資料』第 34 号第 3 分冊に再録) 1997 年
- 「長塚節をめぐる人々－斎藤茂吉」『長塚節の文学』筑波書林、1995 年
- 「時代の証言としての愛の相－長塚節の短篇小説」『長塚節の文学』(長塚節研究会) 2001 年
- “The Modestly Indomitable Trailblazer as a Witness – Kiyoko Nagase in *Himiko, Himiko!*” *Poetry Tokyo* (Poetry Tokyo Society) No. 6, 1993 年
- “The Redefinition of Tanka” *The Tanka Journal* (The Japan Tanka Poets’ Club) No. 5, 1994 年

“A Seriously Engaged Onlooker – The World of KONDÔ Yoshimi” *Japan Poetry Review* (日本現代英米詩学会) No. 1, 1995 年

“An Expression is Thinking: An Essay on KONDÔ Yoshimi” *The Tanka Journal*, No. 8, 1996 年

“Nagase Kiyoko as a ‘Good-for-Nothing’ Poet” *Japan Poetry Review*, No. 3, 1997 年

「萬葉考シリーズ」 [*The Tanka Journal*, Nos. 1-4; 『青幡』 (青幡短歌会) Nos. 2, 3, 5, 8-10, 12, 13, 16, 18, 20-26; *ELM*, Nos. 66, 82-87 に『萬葉集』の譬喩、表現、用字法などについて 28 回論じた] 1992-1997 年

D. 書評、研究ノート・余滴、随想、学習参考記事、紹介文、等 (以下主なもの)

「研究ノート-両極端の作家に奇妙な類似 (Faulkner と Hawthorne)」『朝日新聞』 (1971 年 12 月 1 日)

「フォークナーにおける〈愛〉」『フォークナー全集』 富山房、月報 12、1972 年

「〈愛の橋〉への愛-カヴァード・ブリッジ序説」『英語文学世界』 英潮社、1974 年

「〈愛の橋〉 - Covered Bridge の魔力」『英語青年』 Vol. 141. No. 11, 1996 年 [表紙にこの橋の拙作スケッチも]

「七月の光の中を-フォークナーの墓詣で行」『英語青年』 Vol. 120. No.10, 1975 年

「神の部分-「自作自注」と「誤解」」『未来』 1976 年 3 月号

「真価の把握-文学作品の「正解」について」『未来』 1976 年 8 月号

「案内特集〈英語青年〉-最高の学術雑誌: 英語学英米文学を守備範囲に」『週刊読書人』 (1980 年 4 月 7 日)

「テネシー・ウィリアムズ-その小説世界をめぐって」『東京大学新聞』 第

- 1310号(1981年10月26日)、第1311号(1981年11月3日)
「私の語学学習の思い出」『週刊読書人』(1982年4月5日)
「遙かなる呼応 - 狭野弟上娘子とエミリー・ディキンソン」『未来』1987年5月号
「岐路東西 - 〈採らなかつた道〉と〈哭岐泣練〉」『未来』1990年4月号
「〈プロクラステースの寝台〉と〈続短断長〉」『未来』1990年7月号
「これからの大学英文科 - 専門家のチームによって」『英語青年』Vol. 142. No. 6, 1996年
「芭蕉自筆『奥の細道』を楽しむ」『樹』俳誌 樹 74号、1997年
「マーガレット・ミッチェル - 南部の逆襲」週刊朝日百科『世界の文学』41, 2000年
「募りくるカントへの思い」『カント全集』第2巻(岩波書店)月報、2000年
「書籍と評者に人を得る - *The New York Times Book Review*」『英語青年』Vol. 146. No. 12, 2001年
「海外新潮」(William Faulkner - 生涯と作品 / Joyce Carol Oates の意味 / Hemingway の書翰集 / Moore と Plath の全詩集)『英語青年』Vol. 127. No.1, No. 4, No. 7, No. 10, 1981年 - 1982年
「基本動詞をマスターしよう」(1) - (6), Part II (1) - (4) *Mainichi Weekly* (毎日新聞社) Nos. 687 - 692, 710 - 713. 1985年7月 - 9月, 1986年1月
「前置詞に強くなる」(1) - (6) *Mainichi Weekly*, Nos. 791 - 796, 1987年7月 - 8月
「アメリカ文学の新鋭」(1) - (5) (Susan Minot, *Monkeys* / Kaye Gibbons, *Ellen Foster* / David Updike, "Summer" / Robert Olmstead, *Soft Water* / Mona Simpson, "Approximations")『啓林・高英篇』新興出版社啓林館 Nos. 58 - 62, 1989年4月 - 9月

「ピエリアの泉－英詩を楽しむ」(1)－(10)『啓林・高英篇』Nos. 104－113; 1993年11月－1994年10月

「名作のさわり」(1)－(100) *Mainichi Weekly*, Nos. 775－1034(殆隔号に) [詞華集を兼ねた小英米文学史の趣で、フォークナー『響きと怒り』からジョイス『ユリシーズ』まで、シェイクスピア『リア王』、バニヤン『天路歷程』、ブレイク「虎」、チャールズ・モーガン『泉』、ロレンス・ダレル『アレグザンダー四重奏』など英米の詩、小説、戯曲の名作100篇を取り上げた] 1987年4月－1992年4月

● 『筑波大学新聞』に8篇

「不幸な詩型・短歌－誤解による偏見と先入観」No. 47 (1980・11) / 「冬の秀歌」No. 48 (1980・12) / 「茂吉を慕って－私の最上川紀行」No. 70 (1983・6) / 「〈セレンディピティ〉と〈魚網鴻離〉」No. 101 (1987・5) / 「〈ゴルディオスの結び目〉と〈快刀乱麻〉」No. 133 (1991・5) / 「呼び戻したき影－三好達治生誕百年の日に」No. 207 (2000・9) / 「日本式な、あまりに日本式な－マーガレット・ミッチェル生誕百年に」No. 210 (2000・12) / 「長いものに巻かれないこと－巳歳に始まった21世紀」No. 211 (2001・2)

● 『光陰』(筑波大学比較文化学類通信)に32篇 No.3, 9, 29－32, 34, 36, 38－49, 51－57, 59－63.

「牛久沼辺の光－住井すゑさん賛歌」No. 31 / 「論文とは－鉾脈の発見・舌を蕩かす手料理」No. 36 / 「迫害される名誉－スタール夫人復活を！」No. 40 / 「〈正統〉を生きる－サルトルの在り方」No. 43 / 「Antoine de Saint-Exupéry (1)－(3)」No. 51 など、1994年9月－2003年1月

項目担当

福田・岩元・酒本編『アメリカ文学研究必携』中教出版 [「フォークナー」「コールドウェル」「W. サロイアン」「南部ルネッサンス」の4項担当]、

1979年

『世界歴史大事典』 教育出版センター [Imagism, New Criticism, Muckrakers などアメリカ文学関係 23 項担当]、1985年

『アメリカ文学作家作品事典』 本の友社 [編集・校閲、並びに アレン・テイト, ケネス・バーク, マリアン・ムーア「詩」など 12 項担当]、1991年

書評 23 冊

● 『未来』に

岸上大作『意思表示』 白玉書房 [1961年12月号]

金井秋彦『枝々の目覚めのために』 新ジャーナル社 [1979年11月号]

竹波愛八『歌集セキレイ』 六法出版社 [2001年1月号]

● 『英語青年』に

E. Edward Richardson, *The Journey to Self-Discovery* (U. of Missouri Press) [Vol. 116. No. 10] 1970年10月

須山静夫『神の残した黒い穴』 花曜社 [Vol. 125. No. 9] 1979年12月

Timothy Dow Adams, *Telling Lies in Modern American Autobiography* (U. of North Carolina) [Vol. 136. No. 7] 1990年10月

J. Hillis Miller, *Topographies* (Stanford U. P.) [Vol. 141. No. 5] 1995年8月

田中久男『ウィリアム・フォークナーの世界－自己増殖のタペストリー』 南雲堂 [Vol. 143. No. 5] 1997年8月

● 『週刊読書人』に

『マーク・トゥエイン自伝』 研究社 [1976年2月9日号]

皆見昭・渥美育子編『シルヴィア・プラスの世界』 南雲堂 [1982年6月14日号]

大橋健三郎『フォークナー研究』 全3巻 南雲堂 [1982年12月20日号]

ノエル・R・フィッチ『シルヴィア・ビーチと失われた世代』 (上) (下)

開拓社 [1986年6月30日号]

齊藤眞他監修『アメリカを知る事典』平凡社 & 佐伯彰一他編『アメリカハンドブック』三省堂 [1987年4月13日号]

「楽しみな歌集の叢書の刊行－光溢れる水上・古典に通じる今西」[1988年10月3日号]

● 『筑波大学新聞』に

高井磊壯『当世いばらき時評(Ⅰ)』筑波書林 [No. 51, 1981年4月25日号]

野田茂徳『救世史巡礼』水府出版 [No. 76, 1984年4月9日号]

● その他に

細川謙三『楡の下道』短歌新聞社『短歌現代』(短歌新聞社) 1989年9月号 [『大正昭和の歌集』(短歌新聞社) 2005年に再録]

Frederick R. Karl, *William Faulkner : American Writer* (Weidenfelt & Nicolson, N.Y.) 『學鎧』(丸善) Vol. 87. No. 2, 1990年2月号

平井正穂編『イギリス名詩選』(岩波文庫) *ELM*, No. 42, 1990年5月

吉崎邦子『ホイットマン－時代と共に生きる』開文社 『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学会) No. 30, 1994年2月

川村ハツエ歌集『孔雀青』短歌研究社 *Muses* (短歌ミュージズ社) 1995年1月

北原保雄『青葉は青いか 日本語を歩く』大修館書店 『國文学』(學燈社) 第43巻第5号、1998年4月

E. 注釈書

J. P. Sartre, *What is Literature?* (川崎寿彦氏と共注) 松柏社、1970年

L. O'Flaherty, *The Sniper* & J. Cary, *The Breakout*. 朝日出版社、1980年

Joyce Carol Oates, *Three Stories of Young America* (中村・石塚氏と共注) 成美堂、1981年

American Stories of Love and Life (岩元巖氏と共注) 朝日出版社、1986年

American Scenes Today (岩元巖氏と共注) 朝日出版社、1988年

F. 歌集、歌書、歌論、歌集解説、等

歌集

『ニューヘイヴン』(431首) 松柏社、1978年

『青い渚』(706首) 六法出版社、1980年

『雪解の雲』(253首) 六法出版社、1982年

『白銀の葉』(985首) 六法出版社、1992年

『吹き尖る峰』(515首) 筑波書林、2001年

『通奏低音』(500首) 筑波書林、2001年

歌集解説・序文等

森田貞子歌集『銀の鉤針』六法出版社 [解説] 1991年

佐野美知子歌集『オリーブの木陰』六法出版社 [解説] 1993年

諏訪部末子歌集『夢を紡ぎて』短歌研究社 [序文、題簽] 1994年

比留川しげる歌集『柳絮舞う』六法出版社 [解説・装画・題字] 1994年

井上志奈歌集『虹たつ朝に』不識書院 [解説] 1995年

大久保廣子歌集『許されてしまいそうな錯覚』短歌新聞社 [解説] 1999

年

詩歌論

「吾が愛誦歌」15篇『学園つれづれ』Nos. 2-4, 6-9, /『月桂樹』Nos. 1-8 [共に地域文化誌] 1978年-1982年

「間歇泉」(1)-(8)『未来』[「新語一生」「価値の発見・創造」「譬喩の先蹤」「オクシモロンと共感覚」などのテーマで詩歌の在り方、姿を論じた] 1978年-1979年

ii 口頭発表

日本アメリカ文学会 [第9回全国大会 (平安女学院大学)「William Styronの*The Confessions of Nat Turner*」1970年 / 第10回全国大会 (学習院

大学)「“The Sins of Fathers” [シンポジウム] - Hawthorne の場合」
1971 年 / 第 14 回全国大会 (鹿児島大学)「ウサギの十年 - John Updike
考」1975 年 / 第 26 回全国大会 (英知大学)「研究発表司会」1987 年
日本英文学会 [第 43 回全国大会 (慶應義塾大学)「Hawthorne における「石」
の意味」1971 年 / 第 54 回全国大会 (福岡大学)「研究発表司会」1982
年 / 第 62 回全国大会 (岡山大学)「1890 年の危機: 自伝とアメリカ作
家たち [シンポジウム] - マーク・トゥエインの場合」1990 年 / 第 67
回全国大会 (筑波大学)「研究発表司会」1995 年」
第 4 回筑波国際会議 (筑波大学)「講演司会: Professor Ihab Hassan “Nation
and Knowledge: Beyond All That”」1994 年
日本ナサニエル・ホーソン協会 [第 3 回全国大会 (甲南大学)「“Allegories
of the Heart” - Hawthorne 考」1984 年 / 第 9 回全国大会 (就実女子大
学)「研究発表司会」1990 年 / 東京談話会 (専修大学)「Hawthorne と
撞着語思考」1990 年 / 第 20 回全国大会 (日本大学)「[[特別講演] オク
シモロン発想 - ホーソンとフォークナー」2001 年」
日本現代英米詩学会 [第 3 回大会 (同志社女子大学)「Marianne Moore「詩」」
1990 年 / 第 4 回大会 (立教大学)「Adrienne Rich の詩とフェミニズム
思想 [シンポジウム] - リッチの愛の詩」1991 年 / 第 6 回大会 (日本
現代詩歌文学館・北上市)「英米詩から見た賢治・光太郎 [シンポジウム]
- Robert Frost と高村光太郎」1993 年 / 第 7 回大会 (千歳市民文化会
館)「北海道の詩人と作家 [シンポジウム] - 北海道の石川啄木」1994
年 / 第 9 回大会 (愛知淑徳大学)「アメリカの小説家詩人たち [シンポ
ジウム] - John Updike」1996 年 / 第 10 回大会 (広島市国際青年会館)「二
つの詩から見た Robert Bly の詩想・思想 [シンポジウム] - 「哲学に
ついての黙想」と「暗渠の中を凝視しようと跪いて」1997 年 / 第 12 回
大会 (大妻女子大学)「[[講演] John Updike と風俗詩・誌」1999 年 / 第

13 回大会（同志社女子大学）「Wallace Stevens を見直す・読み直す [シンポジウム] - *Aurora of Autumn*」2000 年 / 第 14 回大会（東北学院大学）「研究発表司会」2001 年 / 第 15 回大会（神戸女学院大学）「研究発表司会」2002 年]

iii 講演・講座

福井県立大野高等学校「愛の橋 - カヴァード・ブリッジの話」1980 年 9 月

茨城県高等学校教育研究会英語部総会（水戸農協会館）「フォークナーとヘミングウェイ - 主にその女性像」1982 年 6 月

文学講座（現つくば市竹園公民館）「左千夫と節（1）-（5）」1982 年 10 月 - 1983 年 2 月

茨城県更生保護婦人会連合会（土浦市民会館）「子供の世界と詩の世界」1983 年 7 月

第 12 回土浦市文化祭文化講演会（土浦石岡地方社会教育センター）「伊藤左千夫と長塚節の文学」1983 年 11 月

取手市民生教育協議会研修会（取手公民館）「文学作品と〈正解〉」1984 年 4 月

真壁郡関城町立西小学校 P T A 研修講演会「日本人とアメリカ人」1984 年 6 月

社会大学講座（土浦石岡地方社会教育センター）「生きがいについて」1984 年 10 月

「蝸牛の会」例会（筑波大学）「私の愛誦歌 - 感動の共有」1984 年 11 月 / 「マーク・トゥエインの短篇」1985 年 5 月

社会教育の集い（八郷町瓦会地区多目的研究センター）「長塚節の生き方」1985 年 1 月

「創作グループ」研究会（長野県上田市図書館）「短歌と文章」1985 年 5

月

筑波大学公開講座 [(土浦石岡地方社会教育センター)「長塚節－『土』と秀歌」1985年10月/(水海道市民会館)「長塚節の秀歌」1985年10月/(下妻公民館)「常総の歌人－長塚節」1986年10月/(牛久中央公民館)「漱石の『心』とホーソーンの『緋文字』」1989年6月/(下妻公民館)「ピューリタン社会の〈愛〉－17世紀アメリカ・ニューイングランド」1990年10月/(石下公民館)「愛の清教主義－ホーソン『緋文字』と漱石『心』」1991年6月/(牛久中央公民館)「文化と言葉〈譬喩表現〉」1993年12月]

津田塾セミナー (津田塾同窓会館)「泥沼の二輪の名華－マーク・トゥエインの妙技」1987年8月

財団法人ラボ国際交流センター教育講演会・船橋教育委員会協賛 (船橋市中央公民館)「トム・ソーヤのアメリカ」1988年5月

土浦経済同友会 (土浦第一ホテル)「アメリカ合衆国創成期の頃」1988年7月

東京都職員研修講演 (都職員研修所)「大きな石の顔 (1) (2)」1988年10月6日、14日

シルバー学苑開級式講演・阿見町教育委員会 (阿見町公民館)「美しく生きるとは」1989年5月

牛久市書道連盟第5回研修会 (牛久中央公民館)「書と詩歌」1991年5月

比較文化研究ゼミナール・土浦国際交流協会 [(土浦市民会館)「比較文化とは何か (1)」1992年9月/(同)「アメリカ人と文化」1992年11月/(同)「比較文化とは何か (2)」1993年9月/(同)「文化と言葉」1993年11月/(水郷体育館)「ニューイングランドの誕生」1994年9月/(同)「日本語と英語の文学表現」1994年11月/(土浦市民会館)「英米詩と詩型」1995年8月/(同)「フォークナーの模索－新しい〈ファミリー〉の在り方」1995年]

文化講演会（石田歯科医院サロン）「文芸作品と譬喩表現」1996年2月
茗溪会会員研修講演（筑波研修センター）「常陸と『萬葉集』」1996年8月

Ⅲ－Ⅱ 教育・研究活動（成城大学時代，2003年4月～2010年3月）

i 著作

- 「文学作品が描くアメリカー個、共同体、風俗」『アメリカとは何か』（成城大学）2003年8月
- 「〔書評〕目眩くばかりの華麗なテキスト－J. ヒリス・ミラー『アリアドネの糸－物語の線』英宝社」『週刊読書人』2003年9月5日号
- 「四語書いたら五語削ろう」『成城英文学』（成城大学大学院・成城英文学の会）No. 28, 2004年3月
- 「採らなかった道と後ろに出来る道」『学生生活』（成城大学学生部）第202号、2004年4月
- 「終りは再びの始まり－マリアン・ムーアの全詩作私訳完了」『成城文藝』（成城大学文芸学部紀要）第187号、2004年7月
- 「〈訳注式〉英語詩演習（30）Richard Wilber, “The Writer”－飛翔への祈り」『英語青年』Vol. CL, No. 6, 2004年9月
- 「固有名詞の普通名詞化語彙小考－随想風に、袖珍辞書風に」『成城文藝』第189号 [『英語学論説資料』第40号第3分冊、及び『中国関係論説資料』第48号第2分冊下に再録] 2005年1月
- 「フレデリック・ゴダード・タッカーマンの詩（1）酔めた心酔、自然と愛への / （2）新たなる相貌、物語り巧者としての / （3）ある探求、裡なる火からの / （完）不運なる幸運、時代に魁ることの」『成城文藝』第190号－193号、2005年3月、5月、9月、12月
- 「〔書評〕吉崎・溝口編著『ホイットマンと19世紀』開文社出版」『英語青年』Vol. CL I. No. 8, 2005年11月

- 第七歌集『さあれ風が』[440首とサルトル讃歌62首収録] 櫻明館出版、
2005年12月
- 「固有名詞の普通名詞化語彙小考－続」『成城文藝』第194号[これも『英語学論説資料』第40号第3分冊に再録] 2006年3月
- 「『小説家』から詩人へ－学生時代のマリアン・ムーア」『成城文藝』第195号、
2006年6月
- 「アクロスティック・ソネット2篇－追悼福田陸太郎先生」『地球』(地球社)
第141号、2006年6月
- 「追悼歌は作らない－悼近藤芳美」『文藝家協会ニュース』No. 659, 2006年
7月
- 「愛の術－ケネス・コークの〈心三部作〉完」『成城文藝』第196号、2006
年9月
- 「ソネット2篇－「時間が欲しい」「阿呆韻律」^{アフオリズム}」及び「ビショップに捧げ
られたロウエルの詩2篇」『地球』第142号、2006年9月
- 「アクロスティック・ソネット2篇－「カタツムリ」「古池や蛙」」『地球』
第143号、2006年12月
- 「英訳『遠野物語』2002年版」『民俗学研究所ニュース』(成城大学) No.
75, 2007年1月
- 「ヘンリー・ヴォーン小考－(1) アスク川の白鳥 / (2) その瞑想を追
い始める / (3) 〈死〉からの再出発」『成城文藝』第199号－第201号、
2007年6月、9月、12月
- 「『発見』のその後－柳田國男少年直筆の写本」『民族学研究所ニュース』
No. 78, 2007年10月
- 「[書評] 越川芳明著『ギターを抱いた渡り鳥－チカーノ詩礼賛』思潮社」『英
語青年』Vol. CLIII. No. 11, 2008年2月
- 「鍵としての落穂－Kate Chopinの詩」『成城イングリッシュモノグラフ』

第 40 号 [吉田正治・塩川千尋両教授退職記念号] 2008 年 2 月

「ヘンリー・ヴォーン小考 - (4) 「序文」と「反歌」に包まれて / (5) 複眼による並置比較思考 / (6) 追求は異なる角度、視点から / (7) 花と星へ 嵐と夜から苦悶に耐えて / (8) 〈隠された宝〉へ向かって / (9) 哀歌に託す自己励起 / (10) 昇天と復活への思い」『成城文藝』第 202 号 - 第 208 号、2008 年 3 月、6 月、9 月、12 月；2009 年 3 月、6 月、9 月

「飯^{いい}の降る山、マナを授かる野」『民俗学研究所ニュース』No. 81, 2008 年 7 月

「固有名詞の普通名詞化語彙小考 - 続々」『成城文藝』第 204 号 [『中国関係論説資料』第 50 号第 2 分冊, 及び『英語学論説資料』第 42 号に再録] 2008 年 9 月

「田辺と南方熊楠、我が原点」『民俗学研究所ニュース』No. 85, 2009 年 7 月

「「類感呪術」と「感染呪術」 - 『金枝篇』への思い」『民俗学研究所ニュース』No. 86, 2009 年 10 月

「燃^{びと}犀人〈イザヤ・ベンダサン〉再訪」『民俗学研究所ニュース』No. 87, 2010 年 1 月

「ヘンリー・ヴォーン小考 - (11) 独立と連合と / (12) 高潔な正義を求めて」『成城文藝』第 209 号、第 210 号；2009 年 12 月、2010 年 3 月

「近藤芳美短歌 18 首選出英訳」[“Sky Burial” from *The panther* 『黒豹』(1968) / “Wind-sound” from *A Turning point* 『岐路』(2004) / Five Tankas from *Coming Back of A Distant Summer* 『遠く夏めぐりて』(1974)] *The Tanka Journal*, No.22, No.26, No.28; 2004 年 6 月, 2005 年 6 月, 2006 年 6 月

ii 口頭発表・講演・講座

「永瀬清子－英訳 12 代表詩篇」 日本現代英米詩学会第 18 回大会（福岡女子大学）2005 年 6 月

「[講演] フォークナーにおける〈空白〉の意味」 第 13 回茨城大学アメリカ文学研究会（茨城大学）2005 年 10 月

「フレデリック・ゴダード・タッカーマンの物語詩」 日本現代英米詩学会第 19 回大会（立教大学）2006 年 6 月

「近藤芳美の世界－現代短歌の巨峰に迫る / 〈愛〉の世界」 「成城学びの森・コミュニティ・カレッジ」 春夏・秋冬講座計 12 回：2009 年 5 月－6 月、10 月－11 月

「[講演] 近藤芳美と〈愛〉の世界」 日本英米詩歌学会第 22 回大会（関西大学）2009 年 11 月

*

在職中、英文学科主任、学部人事委員、研究科人事委員、国際交流委員、などを務めた。

最終講義

「隠された露頭－フォークナーの読解から」 2010 年 2 月 23 日

*

- ・手を抜かぬ唯そのみを希い生きて二度目最後の定年迎う
- ・教育に研究にほほほしいままに大学に四十四年在り経つ
- ・駄目押しの幸というべき七年を吾れに与えて成城大学

（「未来」2010 年 5 月号に発表される拙歌から）

森田 たけし
孟